

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年3月6日

【四半期会計期間】 第77期第2四半期(自平成26年10月21日 至平成27年1月20日)

【会社名】 株式会社内田洋行

【英訳名】 Uchida Yoko Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大久保昇

【本店の所在の場所】 東京都中央区新川二丁目4番7号

【電話番号】 東京(3555)4066

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長 秋山慎吾

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区新川二丁目4番7号

【電話番号】 東京(3555)4066

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長 秋山慎吾

【縦覧に供する場所】 株式会社内田洋行 大阪支店
(大阪市中央区和泉町二丁目2番2号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第76期 第2四半期 連結累計期間	第77期 第2四半期 連結累計期間	第76期
会計期間		自 平成25年7月21日 至 平成26年1月20日	自 平成26年7月21日 至 平成27年1月20日	自 平成25年7月21日 至 平成26年7月20日
売上高	(百万円)	61,679	60,629	143,593
経常利益	(百万円)	342	769	2,962
当期純利益 又は四半期純損失()	(百万円)	18	414	1,513
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	438	345	1,939
純資産額	(百万円)	32,699	33,690	34,007
総資産額	(百万円)	81,741	83,666	89,669
1株当たり当期純利益 又は四半期純損失金額()	(円)	0.38	8.24	30.11
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	37.3	37.4	35.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	827	1,299	6,174
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	655	647	1,428
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,419	1,629	1,070
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,444	16,131	16,293

回次		第76期 第2四半期 連結会計期間	第77期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年10月21日 至 平成26年1月20日	自 平成26年10月21日 至 平成27年1月20日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	6.09	15.22

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在せず、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。また、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（情報関連事業分野）

㈱内田洋行ITソリューションズ（連結子会社）、および㈱内田洋行ITソリューションズ西日本（連結子会社）は、平成26年7月21日付で㈱内田洋行ITソリューションズを存続会社とする吸収合併方式で合併しております。

（その他）

㈱ゲーテンベルグ（連結子会社）は、ウチダイインフォメーションテクノロジー㈱（連結子会社）を平成26年7月21日付で吸収合併し、合併後に商号を㈱内田洋行ビジネスエキスパート（連結子会社）に変更しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、10月から12月のGDP成長率がプラスに転じるなど、緩やかな回復基調が継続しておりますが、個人消費の弱さや、海外景気の下振れが引き続きわが国経済を下押しするリスクとなっております。

このような状況のもと、当社グループは当期で3年目となる第13次中期経営計画（平成25年7月期～平成27年7月期）に沿って、安定した利益の追求を第一に顧客の立場にたった新しい価値の提供、活力ある誠実な企業の確立を目指し、「情報の価値化」と「知の協創」を融合することによって新たな付加価値を創出し、お客様の視点に立ってその価値を提供する活動を展開いたしました。

当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、前年同期に公共関連事業分野では大型補正予算による需要、情報関連事業分野ではWindows XPサポート終了に伴うシステム更新需要があったこと等から、売上高は606億2千9百万円と前年同四半期に比べ10億5千万円（前年同四半期比1.7%減）減少いたしました。利益面では、情報関連事業分野等での利益率改善により営業利益6億6千1百万円（前年同四半期に比べ5億5百万円の増加）、経常利益7億6千9百万円（前年同四半期に比べ4億2千6百万円の増加）となりましたが、ソフトウェア除却損8億2千6百万円を特別損失に計上したこと等から、四半期純損失4億1千4百万円（前年同四半期は1千8百万円の損失）となりました。

なお、当社グループの業績は、多くの顧客の決算期にあたる当社第3四半期連結会計期間に売上が多く計上されるという季節変動要因を抱えております。

当第2四半期連結累計期間のセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

<公共関連事業分野>

公共関連事業分野では、売上高は前年を下回ったものの利益面では前年を上回る結果となりました。教育用ICT分野は、タブレットの一人1台案件と校務案件の増加により、売上高、利益ともに伸長いたしました。学校施設設備分野は、震災復興需要や学校以外の公共施設の受注、主力である造作家具以外の家具什器の受注が進み、業績は好調に推移いたしました。一方、教材販売分野では、理科教育分野における前年の大型補正予算が本年なくなった反動から売上高は減少いたしました。自治体分野におきましては、共通番号制度（マイナンバー）に対する国の補助金執行が遅れたことから、売上高は前年対比微減となりました。

これらの結果、売上高は271億1千7百万円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益は11億9百万円（前年同四半期比1.3%増）となりました。

< オフィス関連事業分野 >

オフィス関連事業分野では、消費増税の駆け込み需要の反動減による影響が見られたものの、大規模オフィスビルの供給増加に伴う移転や、各企業が行うユーザーへの訴求を支援するオフィス空間の提案による売上が増大いたしました。

海外市場におきましては、円安の追い風を受け輸出売上が順調に伸長したことから、売上高、利益ともに前年を大きく上回る結果となりました。

これらの結果、売上高は190億8千7百万円（前年同四半期比6.3%増）、営業損失は10億9千5百万円（前年同四半期は13億7千万円の損失）となりました。

< 情報関連事業分野 >

情報関連事業分野では、業務系システム分野においては、前年同期にWindows XP サポート終了に伴うシステム更新需要があったこと等から、売上高は前年同期を下回りましたが、前年においてプロジェクト利益率の低下を招いていた大型の不採算案件が終息したこと等により、利益面については前年同期から大幅に改善いたしました。

システム保守サービス事業につきましても、サーバー、デスクトップの仮想化構築の流れを受け堅調に推移いたしました。また、大手企業向けソフトウェアライセンス販売につきましては、Windows XP端末の買い替えに伴う需要があった前期に比べ売上高は下回りましたが、利益面については堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は140億2千5百万円（前年同四半期比8.4%減）、営業利益は6億2千3百万円（前年同四半期比89.1%増）となりました。

< その他 >

主な事業は人材派遣事業と教育研修事業であり、売上高は3億9千8百万円（前年同四半期比1.3%減）、営業損失は2千万円（前年同四半期は2千2百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ60億3百万円減少し、836億6千6百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金の減少44億5千5百万円、仕掛品の減少9億9千5百万円等により前連結会計年度末に比べ54億1千2百万円減少し、539億7千9百万円となりました。また固定資産は、前連結会計年度末に比べ5億9千万円減少し、296億8千7百万円となりました。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ56億8千5百万円減少し、499億7千6百万円となりました。流動負債は、支払手形及び買掛金の減少70億1千万円、および短期借入金の増加27億円等により前連結会計年度末に比べ48億6千4百万円減少し、389億3千6百万円となりました。また固定負債は、長期借入金の減少4億6千万円等により前連結会計年度末に比べ8億2千1百万円減少し、110億3千9百万円となりました。

純資産合計は、剰余金の配当5億3百万円、上場有価証券の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加2億1千1百万円等により、前連結会計年度末に比べ3億1千7百万円減少し、336億9千万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の35.4%から2.0ポイント上昇し、37.4%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ1億6千2百万円減少し、161億3千1百万円となりました。

< 営業活動によるキャッシュ・フロー >

営業活動による資金の減少は、12億9千9百万円となっております。この減少は主に、売上債権の減少44億9千5百万円、たな卸資産の減少7億5百万円、および減価償却費7億4千8百万円等の資金増に対し、仕入債務の減少70億3千1百万円、および税金等調整前四半期純損失6千9百万円等の資金減によるものであります。

< 投資活動によるキャッシュ・フロー >

投資活動による資金の減少は、6億4千7百万円となっております。この減少は主に、敷金の返金による収入3億円等の資金増に対し、ソフトウェア開発等に係る投資支出5億7千万円および設備投資支出4億2千9百万円等の資金減によるものであります。

< 財務活動によるキャッシュ・フロー >

財務活動による資金の増加は、16億2千9百万円となっております。この増加は主に、短期借入金の純増額27億円の資金増に対し、配当金の支払5億3百万円および長期借入金の返済4億6千万円等の資金減によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

() 基本方針の内容

当社は、当社の株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えます。従って、当社の財務及び事業の方針の決定を支配することが可能な数の株式を取得する買付提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様のご意思に委ねられるべきものと考えます。

当社は、企業価値や株主共同の利益を確保・向上させていくためには、人的資産を中長期的視点で育成し、常に新しい技術・デザインを吸収し、事業パートナーとの信頼関係や、優良な顧客基盤を維持・拡大することが不可欠と考えております。

しかし、株式の大量取得行為の中には、買収の目的や買収後の経営方針等に鑑み、企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることにならないものも存在します。当社は、このような不適切な株式の大量取得行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当ではなく、このような者による大量取得行為に対しては必要かつ相当な手段を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

() 基本方針実現のための取組み

(a) 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループは、前中期経営計画に引き続き、平成24年7月に第13次中期経営計画を策定し、安定して利益を生み成長する企業、活力ある誠実な企業を目指して、顧客への提供価値を重視した経営に取り組んでいます。今後とも企業としての存在価値の根幹である「健全なる持続的成長」を経営の最大テーマと考え、各事業の構造改革を加速するとともに、グループ経営の体質強化・充実を図り、企業価値の更なる向上を目指してまいります。

当社は、コーポレート・ガバナンス強化のため、平成18年より執行役員制度を導入し、経営管理機能と業務執行機能の分離を進めているほか、経営環境の変化に迅速に対応できる機動的な経営体制の確立と取締役の経営責任を明確にするために取締役の任期を1年とする等の施策を実施しております。

さらに、経営管理機能と業務執行機能の分離を一層明確にし、執行役員の役割を再定義するとともに、迅速な意思決定と施策の実施を目的として経営会議を新設するなど、意思決定システムの再構築を実施しております。

また、コンプライアンスに関しては、毎年12月1日を「コンプライアンスデー」と定め、コンプライアンスの意義について確認するとともに、「内田洋行グループ行動規範」を制定し、当社グループをあげて、その徹底につとめております。

(b)基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成19年10月13日開催の第69期定時株主総会における承認に基づき、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」を導入しました。その後、平成22年10月16日開催の第72期定時株主総会において、同対応策を一部変更したうえで更新することについて承認を得たのに続き、平成25年9月2日開催の取締役会において、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下、更新後の対応策を「本プラン」といいます。）を更新することを決議し、同年10月12日開催の第75期定時株主総会において本プランの更新について承認を得ております。

本プランは、当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付、又は公開買付を行う者の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け（以下「買付等」と総称します。）を対象とします。これらの買付等が行われた際、それに応じるべきか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とするものです。また、上記基本方針に反し、当社の企業価値・株主共同の利益を毀損する買付等を阻止することにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的としております。

当社の株券等について買付等が行われる場合、当該買付等に係る買付者等には、買付内容等の検討に必要な情報及び本プランを遵守する旨の誓約文言等を記載した書面の提出を求めます。その後、買付者等から提出された情報や当社取締役会からの意見や根拠資料、これに対する代替案（もしあれば）が、独立社外者（現時点においては当社経営陣から独立性の高い社外監査役1名及び社外の有識者2名）から構成される独立委員会に提供され、その評価、検討を経るものとします。独立委員会は、外部専門家等の助言を独自に得た上、買付内容の評価・検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、買付者等との交渉、株主に対する情報開示等を行います。

独立委員会は、買付者等が本プランに規定する手続を遵守しなかった場合、又は当該買付等の内容の検討、買付者等との協議・交渉等の結果、当該買付等が当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合など本プランに定める要件に該当し、後述する新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、独立委員会規則に従い、当社取締役会に対して、新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。この新株予約権には、買付者等による権利行使が認められないという行使条件、及び当社が買付者等以外の者から当社株式等と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項が付されており、原則として、1円を払い込むことにより行使し、当社株式1株を取得することができます。当社取締役会は、独立委員会の上記勧告を最大限尊重して新株予約権無償割当ての実施又は不実施等の決議を行うものとします。当社取締役会は、上記決議を行った場合速やかに、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、情報開示を行います。

本プランの有効期間は、平成25年10月12日開催の定時株主総会終結後3年以内に終結する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までです。但し、有効期間の満了前であっても、当社の株主総会において本プランに係る本新株予約権の無償割当てに関する事項の決定についての取締役会への委任を撤回する旨の決議が行われた場合、当社の株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなります。

本プラン更新後であっても、新株予約権無償割当てが実施されていない場合、株主の皆様が直接具体的な影響が生じることはありません。他方、本プランが発動され、新株予約権無償割当てが実施された場合、株主の皆様が新株予約権行使の手続を行わないとその保有する株式全体の価値が希釈化される場合があります（但し、当社が当社株式を対価として新株予約権の取得を行った場合、株式全体の価値の希釈化は生じません。）。

なお、本プランの詳細については、インターネット上の当社ウェブサイト(アドレス <http://www.uchida.co.jp/company/ir/pdf/2013-9-2tekiji.pdf>)に掲載する平成25年9月2日付プレスリリースをご覧ください。

() 具体的取り組みに対する当社取締役の判断及びその理由

企業価値向上のための取組みやコーポレート・ガバナンスの強化といった各施策は、当社の経営計画に基づく各施策、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針に沿うものです。

また、本プランは、前記() (b)記載のとおり、企業価値・株主共同の利益を確保・向上させる目的をもって更新されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。特に、本プランは、株主総会で承認を得て更新されたものであること、その内容として合理的な客観的要件が設定されていること、独立性の高い社外者によって構成される独立委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で独立した第三者である専門家を利用することができることとされていること、有効期間が最長約3年と定められた上、取締役会によりいつでも廃止できるとされていることなどにより、その公正性・客観性が担保されており、企業価値・株主共同の利益に適うものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、3億4千8百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年1月20日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年3月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	52,096,858	同左	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 単元株式数 1,000株
計	52,096,858	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月21日～ 平成27年1月20日		52,096,858		5,000		3,629

(6) 【大株主の状況】

平成27年1月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	2,485	4.77
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	2,071	3.98
株式会社内田洋行	東京都中央区新川二丁目4番7号	1,766	3.39
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	1,577	3.03
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	1,423	2.73
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	1,386	2.66
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番12号 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーZ棟	1,374	2.64
内田洋行グループ従業員持株会	東京都中央区新川二丁目4番7号	1,304	2.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,212	2.33
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,094	2.10
計		15,694	30.13

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年1月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,766,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 89,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 50,002,000	50,002	同上
単元未満株式	普通株式 239,858		同上
発行済株式総数	52,096,858		
総株主の議決権		50,002	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権1個)含まれております。

【自己株式等】

平成27年1月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社内田洋行	東京都中央区新川二丁目 4番7号	1,766,000		1,766,000	3.39
小計		1,766,000		1,766,000	3.39
(相互保有株式) さくら精機株式会社	大阪府八尾市楠根町 二丁目61番地	84,000		84,000	0.16
株式会社オーユーシステム	岡山県岡山市北区 撫川839-1	5,000		5,000	0.01
小計		89,000		89,000	0.17
計		1,855,000		1,855,000	3.56

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
監査役(常勤)	-	木岡 明治	平成26年11月20日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年10月21日から平成27年1月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年7月21日から平成27年1月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年7月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,770	18,647
受取手形及び売掛金	2 26,683	22,227
商品及び製品	6,184	6,562
仕掛品	4,622	3,627
原材料及び貯蔵品	465	445
繰延税金資産	1,266	1,293
短期貸付金	80	60
その他	1,368	1,170
貸倒引当金	50	55
流動資産合計	59,391	53,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,955	4,849
機械装置及び運搬具（純額）	250	289
工具、器具及び備品（純額）	1,044	1,154
リース資産（純額）	62	60
土地	8,552	8,553
有形固定資産合計	14,864	14,907
無形固定資産		
ソフトウェア	2,922	2,171
その他	107	97
無形固定資産合計	3,030	2,269
投資その他の資産		
投資有価証券	6,778	7,190
出資金	13	6
長期貸付金	1,800	1,799
退職給付に係る資産	23	23
繰延税金資産	2,295	2,339
その他	1,701	1,377
貸倒引当金	229	226
投資その他の資産合計	12,383	12,510
固定資産合計	30,278	29,687
資産合計	89,669	83,666

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年7月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 28,348	21,338
短期借入金	3,340	6,040
1年内返済予定の長期借入金	920	920
未払費用	4,023	3,762
未払法人税等	713	356
未払消費税等	589	563
賞与引当金	1,738	1,708
工事損失引当金	96	61
その他	4,030	4,185
流動負債合計	43,801	38,936
固定負債		
長期借入金	2,860	2,400
繰延税金負債	57	65
退職給付に係る負債	5,953	5,638
資産除去債務	236	236
その他	2,753	2,698
固定負債合計	11,860	11,039
負債合計	55,661	49,976
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	3,223	3,223
利益剰余金	23,033	22,019
自己株式	539	540
株主資本合計	30,717	29,702
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,516	1,728
為替換算調整勘定	346	21
退職給付に係る調整累計額	147	110
その他の包括利益累計額合計	1,022	1,595
少数株主持分	2,267	2,392
純資産合計	34,007	33,690
負債純資産合計	89,669	83,666

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)
売上高	1 61,679	1 60,629
売上原価	46,854	45,253
売上総利益	14,824	15,376
販売費及び一般管理費	2 14,669	2 14,714
営業利益	155	661
営業外収益		
受取利息	25	24
受取配当金	57	65
持分法による投資利益	27	19
金型・設備使用料	49	47
その他	215	165
営業外収益合計	375	323
営業外費用		
支払利息	65	73
売上割引	37	36
その他	84	105
営業外費用合計	188	215
経常利益	342	769
特別利益		
固定資産売却益	200	35
事業譲渡益	-	27
負ののれん発生益	68	-
退職給付制度改定益	12	-
特別利益合計	281	63
特別損失		
ソフトウェア除却損	-	3 826
退職給付制度改定損	-	73
減損損失	86	2
和解金	34	-
固定資産売却損	28	-
特別損失合計	148	901
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	475	69
法人税、住民税及び事業税	323	289
法人税等調整額	18	133
法人税等合計	341	156
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	133	225
少数株主利益	152	188
四半期純損失()	18	414

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	133	225
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	189	207
為替換算調整勘定	115	325
退職給付に係る調整額	-	38
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	304	570
四半期包括利益	438	345
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	280	158
少数株主に係る四半期包括利益	158	186

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	475	69
減価償却費	775	748
減損損失	86	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	18	1
工事損失引当金の増減額(は減少)	14	34
退職給付引当金の増減額(は減少)	188	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	425
受取利息及び受取配当金	82	90
支払利息	65	73
持分法による投資損益(は益)	27	19
ソフトウェア除却損	-	826
固定資産売却損益(は益)	172	35
負ののれん発生益	68	-
売上債権の増減額(は増加)	1,891	4,495
たな卸資産の増減額(は増加)	615	705
仕入債務の増減額(は減少)	3,171	7,031
その他	485	267
小計	320	585
利息及び配当金の受取額	89	100
利息の支払額	65	73
法人税等の支払額	570	782
法人税等の還付額	39	41
営業活動によるキャッシュ・フロー	827	1,299
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	632	10
定期預金等の払戻による収入	496	0
有形固定資産の取得による支出	369	429
有形固定資産の売却による収入	600	86
無形固定資産の取得による支出	789	570
無形固定資産の売却による収入	0	-
投資有価証券の取得による支出	58	97
投資有価証券の売却及び償還による収入	54	-
貸付けによる支出	52	1
貸付金の回収による収入	3	23
その他	93	352
投資活動によるキャッシュ・フロー	655	647

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	3,230	2,700
長期借入れによる収入	200	-
長期借入金の返済による支出	415	460
リース債務の返済による支出	48	47
配当金の支払額	503	503
少数株主への配当金の支払額	43	59
自己株式の取得による支出	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,419	1,629
現金及び現金同等物に係る換算差額	57	155
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	993	162
現金及び現金同等物の期首残高	10,370	16,293
連結子会社と非連結子会社の合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	80	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 11,444	1 16,131

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、連結子会社である(株)内田洋行ITソリューションズ西日本は同じく連結子会社である(株)内田洋行ITソリューションズと合併したため、連結の範囲から除外しております。

また、連結子会社であるウチダインフォメーションテクノロジー(株)は同じく連結子会社である(株)ゲーテンベルグ(株)内田洋行ビジネスエキスパートに商号変更)と合併したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が169百万円増加し、利益剰余金が96百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年7月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月20日)
受取手形割引高	37百万円	10百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成26年7月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年1月20日)
受取手形	1,019百万円	- 百万円
支払手形	374	-

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)

当社グループの業績は、多くの顧客の決算期にあたる第3四半期連結会計期間に売上が多く計上されるという季節変動要因を抱えております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)	
給料及び手当	5,871	百万円	6,019	百万円
福利厚生費	1,356		1,402	
賞与引当金繰入額	1,174		1,268	
運送費及び保管費	1,201		1,126	
旅費及び交通費	684		700	
減価償却費	430		427	
地代家賃	373		342	
販売促進費	294		326	
退職給付費用	619		277	
貸倒引当金繰入額	5		7	

3 ソフトウェア除却損

当第2四半期連結累計期間(自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)

ソフトウェアに含めて計上しておりました次期基幹システム開発費用の一部除却処理によるものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)	
現金及び預金勘定	13,887	百万円	18,647	百万円
取得日から満期日までの期間が 3ヶ月を超える金銭信託	1,500		1,500	
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	942		1,015	
現金及び現金同等物	11,444		16,131	

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年7月21日 至 平成26年1月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月12日 定時株主総会	普通株式	503百万円	10.0円	平成25年7月20日	平成25年10月16日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年7月21日 至 平成27年1月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年10月11日 定時株主総会	普通株式	503百万円	10.0円	平成26年7月20日	平成26年10月15日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年7月21日 至 平成26年1月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	公共 関連事業	オフィス 関連事業	情報 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	28,000	17,961	15,314	61,276	403	61,679	-	61,679
セグメント間の内部売上高 又は振替高	211	120	22	354	1,302	1,656	1,656	-
計	28,212	18,081	15,337	61,630	1,706	63,336	1,656	61,679
セグメント利益又は損失()	1,095	1,370	329	54	22	76	79	155

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業、教育研修事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、売却予定の資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額したこと等により、減損損失86百万円を特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「公共関連事業」3百万円、「オフィス関連事業」3百万円、および「情報関連事業」79百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、子会社の株式を追加取得したことに伴い、負ののれん発生益68百万円を特別利益に計上しております。

なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、「公共関連事業」5百万円、「オフィス関連事業」3百万円、「情報関連事業」56百万円、および「その他」3百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年7月21日 至 平成27年1月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	公共 関連事業	オフィス 関連事業	情報 関連事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	27,117	19,087	14,025	60,231	398	60,629	-	60,629
セグメント間の内部売上高 又は振替高	248	138	31	418	1,528	1,946	1,946	-
計	27,366	19,226	14,056	60,649	1,926	62,576	1,946	60,629
セグメント利益又は損失()	1,109	1,095	623	637	20	616	44	661

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業、教育研修事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月21日 至平成26年1月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月21日 至平成27年1月20日)
1株当たり四半期純損失金額	0円38銭	8円24銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	18	414
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	18	414
普通株式の期中平均株式数(千株)	50,241	50,303

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在せず、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年3月6日

株式会社内田洋行
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 富 永 貴 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成 田 孝 行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社内田洋行の平成26年7月21日から平成27年7月20日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年10月21日から平成27年1月20日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年7月21日から平成27年1月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社内田洋行及び連結子会社の平成27年1月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。